

1 『開会の挨拶』

(国土技術政策総合研究所 所長 小俣 篤)

皆さん、おはようございます。本日は18回目になる国土技術政策総合研究所の講演会を開催したところ、このように朝早くから大勢の皆様方にお集まりいただき、感謝を申し上げたいと思います。日ごろから皆様方には私どもの研究所の研究活動に当たり、多大なる御支援、御理解、御協力を賜っているところでございまして、重ねて御礼を申し上げたいと思います。

本日の講演会は、18回目を数えることとなります。毎年、大きな会場で開催させていただきますが、今日もこの会場の定員を大幅に上回る申し込みをいただいております。私どもの研究所に大きな関心を持っていただけているということ、この講演を行うたびに実感をさせていただいているところでございます。

今日のプログラムを見ていただきますと、大きく午前中と午後との2部構成になっています。今、我が国の大きな政策課題でございます『生産性革命』と、それから今年も多数の災害が発生しております『防災・減災』です。午前中が『生産性革命』、午後は『防災・減災』というようにプログラムを構成しました。

『防災・減災』に関して言えば、今年は非常に多くの災害があったというだけではなくて、非常に多様な災害があったと感じています。2つの大きな地震がありましたけれども、最初の大阪の地震ではブロック塀の倒壊という市街地での災害が大きな話題になりました。また2つ目の北海道での災害では大規模な地震による地滑りや市街地での液状化という災害の局面を私たちは見せつけられました。また、台風災害、水害、土砂災害も例年のように大きな災害がありました。今年の水害、土砂災害に加えて、大阪湾で既往最高潮位を記録するような高潮もございました。また同時に、「風水害」という言葉は私もよく耳にするわけですが、いわゆる風害ですね、風で自動車が飛ばされる、あるいは屋根が吹き飛ばすようなそういう強風による災害というものも我々は経験をいたしました。

災害が激甚化するということを言われて久しくなりますけれども、多様化もしてきており、我々、研究機関の果たすべき役割も非常に大きいものがあると思っております。また、いざ災害の本番ということになりますと、つくばの私どもの研究者と土木研究所がいわゆる TEC-FORCE の技術専門家として派遣をされます。そのような形で職員も活躍させていただいているところです。

もう一つの大きな喫緊の課題であります生産性革命、特に社会インフラや住宅分野が果たすべき役割を、研究機関として調査研究をしているところですが、特にその中で建設産業をこれからいかに持続可能な形にしていくか、これは本当に喫緊な課題だと私自身も感じております。こういった生産性革命、生産性向上に係るテーマについては御来場の方々、産学の皆様方とも一緒になり、爆発的にこれらが世の中に定着する、業界に定着するようにしていかないと、なかなか建設業の将来も危ういのではないかと感じているぐらいでして、本当に重要な課題だと考えておりま

す。i-Constructionの推進に当たって、何とか民間の皆さん方が新たな取り組みに火をつけやすいような環境づくりを発注者側としていかにかうまく果たせるのか、ということに取り組んでおります。今日の講演もお聞きいただいた上で、ぜひ様々な御提案をいただき、また一緒になって日本の建設業の難局を乗り越えていけるようにしていければと考えているところです。

いずれにしましても、今日はお昼近くになりますと多くの方でこの会場が混雑するようになるのだろうと思っております。改めまして御来場に御礼を申し上げ、冒頭の私の挨拶とさせていただきます。

どうぞ本日はよろしく願いいたします。

——了——